

(2) 滞留車両の発生

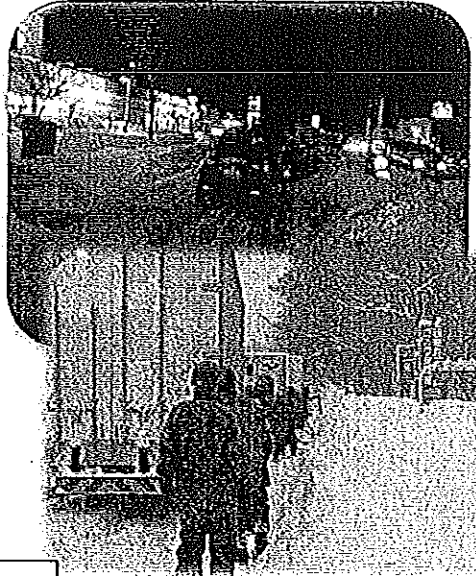
平成26年2月大雪災害に関する検証

<p>主要事象</p>	<p>(2)滞留車両の発生 検証シート番号 12</p>
<p>県民からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・滞留車両について、事前に通行止めの前に迂回路の設定や退避駐車場の対応策が出来なかったのか。 ・国との連携、除雪優先順位の見直し、早期の交通規制が必要です。 ・他県を含む関係機関との連絡調整不足でした。 ・情報集約体制、リアルタイムな情報発信が必要です。
<p>事象が発生した原因</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・降雪予測がはずれて異常降雪となり、積雪が少ない地域で平年の約3～4倍の積雪深となり除雪が追いつきませんでした。 ・雪道装備の不十分な車両があったことによる交通事故やスタック車両の発生があり、車線をふさぎ通行不能となってしまいました。 ・並行する高速道路が通行止めとなり、高速道路開通を待つ車両が現道上に駐車してしまいました。 ・除雪のための通行止めが必要となり、除雪完了を待つ車両が現道上に駐車してしまいました。 ・他県を含む関係機関との連絡調整が不足していました。
<p>課題として浮かびあがった点</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 大雪時の除雪体制の強化が必要です。 ② 通行規制時の誘導方法、関係機関の事前調整不足、情報連絡体制の不足が課題です。 ③ 道路利用者、一般住民への情報発信の不足が課題です。
<p>課題の解決方法・スケジュール</p>	<p>「幹線道路連絡会議」及び「除雪連絡会議」は、以下の事項を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大雪時の除雪体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・気象情報(短期降雪予測)により除雪車両を弾力的に配置します。 ・初期に交通規制するとともに、その後の交通誘導により早期除雪に努めます。 ・幹線道路ではスタック車両の処理のために牽引車両を弾力的に配置します。 ② 交通規制時の誘導方法、関係機関の事前調整、情報連絡体制 <ul style="list-style-type: none"> ・道路管理者と警察が連携し、今回豪雪の車両滞留の事例分析を行い、事前に、交通規制タイミングの調整及び迂回誘導ポイントの調整を行います。 ・隣接県の道路管理者と交通規制に関する調整、連絡体制の強化を図ります。 ・建設事務所単位で、事前に除雪優先道路や排雪場所の設定等を行い情報共有します。 ③ 道路利用者、一般住民への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・気象情報(短期降雪予測)により早期に道路情報提供を開始し、各道路管理者のHPとの連携により情報発信を行います。 ・緊急時には、ラジオ、防災無線、エリアメール、道路管理パトカー、警察パトカー等あらゆる媒体を活用した広報を行います。 ・平常時には、スタック車両の予防のため、トラックの雪道装備徹底についてトラック協会等を通じて広報します。 ・Twitterの活用を行います。 <p style="text-align: center;">《体制づくりを11月まで》</p>

滞留車両の発生

今まで

スリップ等による支障車両により滞留が発生しました。



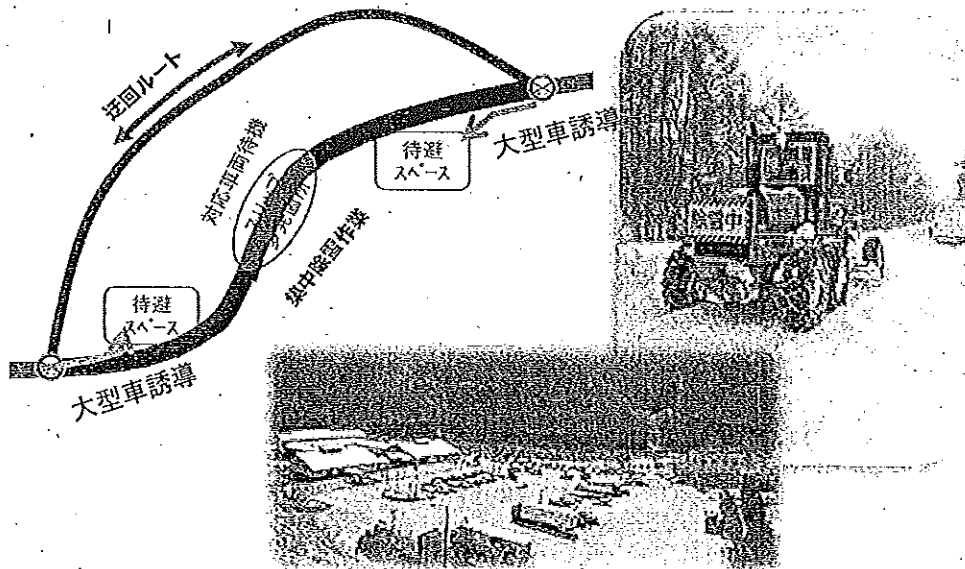
車両の滞留

スタック車両等により、長距離にわたり滞留が発生し、除雪に時間を要しました。



滞留車両の発生を抑制します。

これから



豪雪災害時は、交通規制を行い、除雪優先路線を集中除雪します。そのため、幹線道路ではスリップ多発箇所へ牽引車両の配置を計画するとともに、大型車等を誘導できるような道の駅等を「待避スペース」として予め設定します。また、トラックの雪道装備徹底を積極的に広報します。
《11月まで》